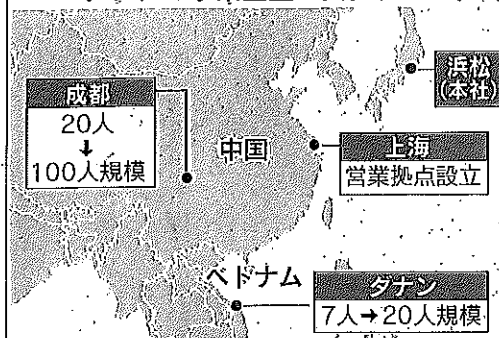


アジアの事業基盤を強化する



ベトナム採用の3人を浜松の本社に呼んで3カ月間一緒に仕事している



三栄ハイテックス

半導体の受託設計・開発を手がける三栄ハイテックス（浜松市、間瀬義宏社長）はアジアでの事業基盤を強化する。中国、ベトナムでエンジニアの現地採用を増やし、中国の営業網を広げる。国内での半導体関連投資が伸び悩むなか、現地の半導体メーカーなどの取引を拡大し、年間1億円程度の海外売上高を2021年3月期には10億円規模に引き上げる。

中国・ベトナムで採用増

半導体エンジニア 成長見据え拡充

地域と
アジア

同社は11年10月に中国・成都、15年6月にベトナム・ダナンに開発拠点を設けた。日本より人件費が低い点を生かし、日系の自動車部品メーカーなどから半導体の設計・開発を受託している。中国拠点では現在20人程度のエンジニアを21年3月期をメドに100人規模に増やす。現在中国拠点では日本からの委託が主で新規取引先の開拓

をほとんど行っていないが、21年3月期をメドに新たに営業担当の社員を10人程度採用。現地の半導体メーカーなどに売り込んでいく。上海などに営業拠点を設立し、中国の半導体市場を把握する体制を整える計画だ。今年設立したベトナム拠点は日本人マネージャ1人とベトナム人6人の7人体制でスタートしたが、今後は毎年5人程度のエンジニアを採用。ASEAN諸国の経済成長を見据えて20人規模まで拡充し、2017年度の単年黒字を目指す。ベトナムで現地採用したエンジニアを選抜して浜松の本社に呼び、一定期間一緒に働いてもらう仕組みも導入した。10月から第1弾として3人が来日し、12月までの3カ月間一緒に働いている。お互いのビジネスに対する考え方を理解し合い、

日本人社員にもベトナム人のやる気を刺激にしてもらうのが狙い。間瀬社長は「国内では半導体業界の再編や人口減少もあり、アジアに打って出ないと優秀なエンジニアは確保が難しくなってきた」と話す。三栄ハイテックスは1983年設立で、半導体設計では老舗。15年3月期の売上高は約28億4000万円、うち海外は1億円程度。14年には電気自動車（EV）ベンチマークのFOMM（フオム、川崎市）に出資し、EVの開発や海外展開に協力するなど、新事業への参画も進めている。